ふるさとの光 発見プロジェクト 7紙連携企画 in 兵庫県赤穂市

千種川

神戸新聞社など西日本の7地方新聞社は、地域資源の魅力を発信する「ふるさとの光」発見プロジェクトを2024年から展開している。第2クール第1弾の舞台は、義士や塩のまちとして知られる兵庫県赤穂市。同市ゆかりの4人が「訪れるたび、心とからだがととのうまち、赤穂」をテーマに、それぞれの視点でお薦めのスポットやグルメなど16件を「ふるさとの光」として選んだ。

えりすぐりの16件選定

5月に神戸市内で「ふるさとの光発見プロジェクトin兵庫」の記者発表会が開かれた。ひょうご観光本部事業推進部長の土井友美さん、関西福祉大学（赤穂市）准教授の金子美里さん、赤穂化成の野中香映さん、赤穂観光大使を務める日本旅行の平田進也さんが選定のポイントや「ふるさとの光」の可能性などを話した。

岡山県との県境に位置する赤穂市へは、大阪からJR新快速で約1時間40分。南は播磨灘に面し、まちの中央を名水百選の一つ、千種川が流れる。市域は、古代遺跡が多く残る北部▽旧城下町の中心部▽塩田開発によって開かれた南部▽天然の良港に恵まれた坂越地区―の特色ある4地区に分けられる。

忠臣蔵のふるさととして知られ、浅野内匠頭や大石内蔵助ゆかりの赤穂城跡、赤穂大石神社などの名所がある。江戸時代から続く塩づくりは今年で400周年。2019年には「日本第一の塩を産したまち播州赤穂」として日本遺産に認定された。

赤穂の魅力あふれるスポットを紹介した選定者のみなさん

自然と人 織り成す輝き

伊和都比売神社

選定のポイント

土井　「観光」は「光を観（み）る」と書く。国内外の方を招く上で大事にしている「人は光を求めて旅をする」の視点で、播磨灘を望む風景が美しい赤穂海浜公園オートキャンプ場（赤穂シーサイドパークグランピング）や桃井ミュージアムを選んだ。

金子　大学生とまちおこし活動に取り組むうち、赤穂で住宅を購入した。住民目線の私のテーマは「体験で関わる」。登山やキャンプを通じて自然と一体化できる坂越アルプス、丸山県民サンビーチをピックアップした。

野中　運営に携わる「AMAMI TERRACE」の来店客に日々雑談で観光案内をしている。その中で多くの客が関心を示してくれる、赤穂唯一の酒蔵・奥藤商事や上質な手織り敷物・赤穂緞通を選んだ。

平田　地域経済の活性化につながるコンテンツを選定した。全国を行脚する68歳の現役添乗員は、赤穂の人々の人情の厚さにも感動している。「人が温かい」も大事な観光資源だ。

「光」のエピソード

土井　疲れたときや仕事のヒントがほしいとき、空、海、湯面の一体感が楽しめる赤穂温泉の〝インフィニティ風呂〟に漬かる。「ふるさとの光」へ出掛けるときは、赤穂温泉もぜひご一緒に。宿泊だけでなく日帰りでも楽しめる。

金子　体験を通じて海、山といった豊かな自然に触れられるのが赤穂のよいところ。住人としてその魅力を満喫しているので、多くの方に味わってほしくて選んだ。

野中　赤穂で生まれ育った人間ではあるが、今回改めて市内を歩き回り、住民や関係者に話も聞いて、じっくり選定する機会が得られてよかった。

平田　私は伊和都比売（いわつひめ）神社の選定を通じて、より経済効果につながる策を考えた。境内に鍵をかけて愛を誓うモニュメントを設置し、干潮時にたたみ岩まで2人で渡って愛を誓ってもらえば、縁結びの御利益が全国に広まるのではないか。

秘める可能性

土井　赤穂市はミネラルツーリズムを通じて塩の文化を紹介するなど、地元の資源を磨き上げるのが上手。それこそが持続的に人を呼び込める秘訣だ。これからも赤穂市と一緒にPRを頑張りたい。

金子　「学生と住民との交流」に可能性を感じ、今後の展開に期待している。1500人もの学生が市内外から通っているのに、以前はJRの駅と大学の往来のみに終わっていた。しかし活動を通じて地域と接点を持った学生が、赤穂への思いをどんどん深くしている。

野中　「ふるさとの光」を訪れてほしいのはもちろんだが、瀬戸内海を見ながらコーヒーを飲んだり、地元スーパーで地場の食品を買ったりするだけでも楽しい。これからは都市部の人が人生の豊かさを取り戻すための場所として、地方が存在価値を発揮する時代だ。

平田　日本のフルーツは世界一。ミネラル豊富な環境で育った「まるおファームのいちご」は驚きのおいしさだ。臭みのない「坂越かき」も国内随一。地元にとっては当たり前でも、よそ者から見たら宝。訪日外国人が姫路城にとどまらず赤穂まで足を延ばすよう、国内外に魅力を発信したい。

土井　播磨灘望む美しい風景
野中　客が関心示す質に注目
金子　住民目線で体験を重視
平田　人の温かさ大事な資源

新快速
播州赤穂行き

赤穂線
Urara

赤穂海浜公園オートキャンプ場
（赤穂シーサイドパークグランピング）

「ふるさとの光」発見プロジェクトの詳細はこちら

7月19日の朝刊で赤穂市の「ふるさとの光」を一挙紹介します。

桃井ミュージアム

赤穂緞通

大避神社

坂越アルプス
坂越アルプスの中腹に位置する妙見寺観音堂から眺める坂越湾

学生と住民の交流
地元農家と学生が連携した野菜販売「八百八」

丸山県民サンビーチ

赤穂温泉

坂越かき

まるおファームのいちご

赤穂市ゆかりの選定員

赤穂観光大使（日本旅行）
平田進也さん

赤穂化成株式会社（AMAMI TERRACE担当）
野中香映さん

関西福祉大学 教育学部准教授
金子美里さん

公益社団法人 ひょうご観光本部 事業推進部長
土井友美さん

【主　催】「ふるさとの光」発見プロジェクト実行委員会（構成＝北國新聞社、福井新聞社、京都新聞、神戸新聞社、山陽新聞社、中国新聞社、西日本新聞社）　【特別協賛】ＪＲ西日本　【協　力】赤穂市